

# しよどろ



仁淀川町  
広報

町章

3

2006年  
月号 No.8

仁淀川町ホームページアドレス

<http://www.town.niyodogawa.kochi.jp/>



「キョーサー、キョーサー」の掛け声とともに、みこしを豪快に揺さぶります（秋葉神社境内）

伝 統

秋葉まつり

## 主な 内容

2・3.....秋葉まつり

4.....国内初、木星電波観測施設が完成

5.....町議会議員選挙開票結果

6.....消防団出初め式

10・11.....町人事行政の運営状況について

# トントンチキチ、トントンチキチ 山あいに響く祭り囃子

二月十一日、土佐三大祭りの一つ、別枝地区の秋葉神社大祭が行われました。

「秋葉さん」と親しみを込めて呼ばれている同神社は、防火の神で知られ、まつりは二百年以上続く伝統行事となっています。

火消し装束の若者や「太刀踊り」の子どもたち、ご神体を乗せたみこしの担ぎ手ら約二百人の練りを、町内外から訪れた大勢の見物客が見入っていました。



真剣な表情で踊る子どもたち（大石家前）

## 秋葉まつり

まつりの目玉「鳥毛ひねり」（しだれ桜で有名な中越家前）



午前九時過ぎ、本村、沢渡、霧之窪の三地区がそれぞれ編成した「練り奉納組」が岩屋神社を出発し、秋葉神社までの約三キロの山道を登っていきます。

途中、市川家や大石家前、法泉寺、中越家で鳥毛ひねりや太刀踊り、神楽を披露します。

一番の呼び物は鳥毛を飾った約六・五歳の毛やりを二人一組で投げ合う「鳥毛ひねり」で、相手方が受け止めると見物客から歓声が上がります。十六人でかつぐみこしは「キョウサー、キョウサー」の掛

け声とともに豪快に揺さぶられます。

また、ひよつとこの面などをかぶり、ひょうきんなしぐさで笑いを誘う「油売り」やキツネの面をかぶった「太鼓かき」も登場します。

午後三時過ぎには秋葉神社に着き、まつりのクライマックスを見ようと境内に詰めかけた大勢の見物客の前で、みこし担ぎは最後の力を振り絞って境内を回り、各組の鳥毛ひねりや太刀踊りも披露され、最後にご神体が奉納され、まつりは終了しました。



悪魔。各組2人ずついます



獅子



先導役の鼻高



どこに行っても人気。油売り



キツネの太鼓かき



休憩時間。身だしなみを整えて…

全国の祭りを題材にしたテレビ番組制作の総合プロデューサーとして来町した早稲田大学・吉村作治教授。エジプト考古学の権威として知られる同氏は大祭前日来町、沢渡の前夜祭「お通夜」から取材を開始。当日の練りにも最後まで同行しました。



油売りに笑顔の吉村教授 (写真中央)

組。高知市から初めてきた三人。山里のまつりに大満足



も地元の産品を並べた売店。夕方方にはほぼ完売

